

教育実践の取り組みと成果「キャリア教育」

南 愛*
鈴 木 浩 子**

1. はじめに

明星教育センターの教育実践として、複数のキャリア教育科目を開講している。これらは、1年次前期の初年次教育科目「自立と体験1」の学びを継続する科目であり、同時に卒業後の人生や就職活動に接続する科目である。また、明星教育センターの特色である「多様性からの学び」「体験による学び」を実現するために、全学部の学生が履修できるアクティブ・ラーニング型の授業として開講されている。2020年度現在開講されている授業は、表1のとおりである。

表1 2020年度開講 キャリア教育科目と初年次教育科目

科目区分	授業名	対 象	開講年度	履修者数 合計
全学共通科目	「自立と体験1」 大学生生活の基盤をつくる	1年前期必修科目	2010年度	23,144名
	「自立と体験2」 社会の課題と出会う	1年後期選択科目	2019年度	496名
全学共通キャリア 形成科目	「自立と体験3A」 社会人としての基礎をつくる	2年～後期自由科目	2012年度	1,527名
	「自立と体験3B」 就業力を身につける	3年～後期自由科目	2012年度	1,466名
	「キャリアデザインA」 理論で考える自己とキャリア	1年～後期自由科目	2015年度	444名
	「キャリアデザインB」 生き方と法律・労働・お金	2年～後期自由科目	2016年度	146名

これらの科目は、大学4年間におけるキャリア教育を体系的に実践することを目的に、順次開講された。すべて明星大学のキャリア教育に関するさまざまな指針に基づき、明星教育センターが運営主体となり、授業内容の検討、実施が進められてきた。なお「全学共通キャリア形成科目」は、2018年度までは「全学共通社会的・職業的自立促進科目」である。

「自立と体験1」以外の授業は、明星教育センターの教員が担当し、共通教案・共通教材で実施する形式をとった。ただし、この共通教案で実施する形式は、さらなる授業内容の充実を目指し、2022年度以降見直しの予定である。また、自由科目の授業は、学年進行に伴って順番に履修することを前提にできないことから、2019年度入学者から、授業名の見直しを行い、現在の授業名に改訂されている。

* 明星教区センター特任准教授

** 明星教育センター常勤教授

明星教育センターが所管するそれぞれの授業は、大学としての基本方針に従って実施され、全学部を対象にした科目であることから、毎年報告書を作成し、授業内容や運営方法の見直しを図ってきた。

本稿では、まず明星教育センターに関連する大学としてのキャリア教育に関する基本方針について概観し、各授業の報告書等から各科目の開講の経緯および授業実施状況を整理し、それらをもとに、明星教育センターが実施してきたキャリア教育科目の成果と今後の展望について考察する。

2. 明星大学のキャリア教育に関する基本方針

明星大学のキャリア教育科目の取り組みに関しては、平成23(2011)年4月1日に施行された大学設置基準の改正により、大学がキャリア教育体制を整えることが義務となったことにさかのぼる。平成22年10月に答申された、キャリア関連科目編成のガイドラインについて(案)(学部長221014-6)では、次のように述べている。

大学のキャリア教育の在り方については、平成20年度からキャリア支援検討委員会で本格的な検討を始め、これまでに「キャリア教育のあり方に関する基本方針」(学部長会210312-13)及び「キャリア教育に係る過程編成および支援体制について」(学部長会220311-9)を学長方針として提示した。この学長方針を基に、今年度はキャリア教育検討委員会を設置し、より具体的なキャリア科目の内容・編成等を検討してきた。

ここに、平成23年度から始まる新たなキャリア教育に向けて、これまでの当委員会の検討結果を「キャリア関連科目編成ガイドライン」として答申します。

また、キャリア関連科目編成の基本的考え方として、明星大学におけるキャリア教育の目的を「自己実現の第一歩として、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てること」とし、生涯を通じた継続的な就業力の育成をめざすものであると位置づけた。キャリア科目は各学部で運営されるが、基本的な考え方の下にキャリア関連科目を編成するものとして、段階的な組立の概要を表2のように提示している。

表2 キャリア関連科目の編成と授業方法等

学年	段階・目的	授業内容		授業の実施方法等	科目等の例
		意識	スキル		
1 前期 後期	導入 (初年次教育-自己理解)	*人と関わる *自分や相手の大切さを知る *大学生活を見通す	*大学組織・施設を知る *大学生活マナーを考える	*全学的な学部横断型授業 *グループワーク *ポートフォリオ作成	*自立と体験1 (全学共通科目)
	プレキャリア (初年次教育-学びの準備) ^{注1)}	*学びの意味や大切さを知る *学びの目的意識を高める *学ぶ習慣のきっかけをつかむ	*読む・書く・聞く・話す能力 (基礎的な日本語能力の修得) *社会マナー・ルールの修得	*自立と体験1との有機的連携 *明星教育センター教員による授業分担 *グループワーク	*自立と体験2の再編成(学科等科目)
2 年	社会人基礎	*自ら行動することの大切さを知る *働く意味を考える *将来設計・職業意識の萌芽	*チームワークを経験する *文章作成能力 *PDCAサイクルの活用能力 *問題発見・解決能力	*プロジェクト型授業(PBL) *実習・フィールドワーク *課外キャリア形成活動の推奨	*キャリア科目 ^{注2)} *キャリア関連科目 *キャリア教育支援プログラム ^{注3)}
3 年	就職力	*専門領域の魅力を再認識する *職業観・職業倫理感を持つ *職業選択の最も大切な価値観(キャリアアンカー)を見出す	*履歴書・エントリーシートの書き方 *面接対応力 *プレゼンテーション技術 *企業調査・研究能力 *資格取得 *SPI試験対策 *ビジネスマナーを知る	*実際に左記スキルを練習させる *インターンシップへの参加 *卒業生・企業による体験談 *明星教育センター教員による授業分担 *模擬的な面接・入社試験 *事務部局による各種就職支援の活用	*キャリア科目 *キャリア関連科目 *「就勝」プロジェクト ^{注4)} *キャリア教育支援プログラム
4 前期					

このガイドラインの中で、「自立と体験1」との関連が深いプレキャリアの授業、および社会に関する知識と経験を要する就業力の授業の実施に関して、明星教育センターの教員の協力の必要性を指摘している。

現在、明星教育センターが実施している科目と比較すると、このガイドラインの考え方を基本に、内容を充実させる形で、明星教育センターのキャリア科目が開講されてきたことが理解できる。

その後の明星教育センター開講科目に関する動きは、次のとおりである。

- ・ 全学共通教育科目（自由科目）「自立と体験3」「自立と体験4」の開設について（学部長231208-3）
- ・ 『『キャリアデザイン1』『キャリアデザイン2』の新設』を平成26年度第4回大学評議会に付議することについて（案）（学部長270312-2-1、270312-2-2）
- ・ 「自立と体験2」の全学共通科目への移行について（諮問委員会最終答申）（学部長281208-1-2）

3. 自立と体験3A（自立と体験3）・自立と体験3B（自立と体験4）

3-1. 開講の経緯

「自立と体験3」「自立と体験4」は、初年次教育科目「自立と体験1」の学びを継続し発展させるキャリア教育科目である。

平成23（2011）年に、全学教務委員会から学長向けに答申「明星大学体系的キャリア教育プログラム『自立と体験3』・『自立と体験4』科目開講について（答申）」が出され、平成24（2012）年4月に「自立と体験4」が、平成24（2012）年9月に「自立と体験3」が開講された。

本答申で設定された教育目標、到達目標は、次のとおりである。

【教育目標】

- ①自己実現の第一歩として、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てること（学部長会210312-13、220311-9）
- ②生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成

【到達目標】

- ①体験活動を通して、自分の生き方を考えられるようにする。
- ②自立する人間として、自らの生き方について、自分自身で考え決断し行動できるようにする。
- ③自らの人生を生き、働くことが社会貢献につながる基礎を作る。
- ④人生を通じて学び続け、働くことを楽しめるようにする

科目名称については、教育理念を具現化し、明星大学の独自の一貫した体系的キャリア教育プログラムとして位置づけるために、「自立と体験1」からの科目名称の連続性を持たせた名称とした。キャリア教育の性格上、絶対的評価基準に当てはめるには適さないため「自立と体験1」と同様に合否科目とされた。また、本科目は自由科目として設定され、履修した場合に卒業要件単位とするか否かについては、各学部教授会の判断によるものとした。

この答申は平成23（2011）年12月の大学評議会において承認され、4月の開講に向けての準備が進められた。必要に応じて、キャリア教育専門コンサルティング業者からのアドバイスを受け、明星大学独自のシラバスを作成する方法を取り、担当教員は明星教育センターの特任・常勤教員に加えて外部講師（上記キャリア教育専門コンサルティング業者からの派遣講師）による実施を検討した。教育方法は、協同学習を通してチームとして活動し、自ら考えることを中心として設計した。

3-2. 授業実施状況

平成24（2012）年～令和2（2020）年までの実施状況は、表3、表4のとおりである。

表3 「自立と体験3」実施状況

年度	受講者数	クラス数	出席率	単位修得率	担当教員数	担当教員内訳
2012	181	11	71.6%	83.4%	9	MEC3名、非常勤1名、外部委託5名
2013	208	13	76.8%	84.1%	7	MEC5名、非常勤1名、専任教員1名
2014	140	8	75.7%	82.1%	6	MEC5名、非常勤1名
2015	204	10	72.1%	78.4%	8	MEC8名、うち1クラスは2名体制
2016	188	9	77.0%	88.0%	8	MEC8名、うち1クラスは2名体制
2017	154	8	76.2%	83.8%	8	MEC8名
2018	147	9	74.0%	91.2%	8	MEC8名
2019	173	9	73.3%	76.9%	8	MEC8名
2020	124	7	84.0%	93.5%	5	MEC5名

※受講者数、出席率、単位修得率は、全欠席者を除いて算出。 ※2020年度以降の科目名「自立と体験3A」。

表4 「自立と体験4」実施状況

年度	受講者数	クラス数	出席率	単位修得率	担当教員数	担当教員内訳
2012	391	18	82.5%	91.0%	9	MEC3名、非常勤1名、外部委託5名
2013	200	14	78.0%	87.5%	9	MEC3名、非常勤1名、外部委託5名
2014	114	10	82.5%	86.6%	8	MEC4名、非常勤1名、外部委託3名
2015	183	10	75.9%	80.0%	6	MEC8名、うち2クラスは2名体制
2016	112	7	79.4%	83.9%	8	MEC8名、うち1クラスは2名体制
2017	118	7	82.4%	96.6%	7	MEC7名、うち1クラスは2名体制
2018	144	8	77.6%	90.9%	6	MEC6名、うち1クラスは2名体制
2019	115	8	78.9%	94.9%	7	MEC7名
2020	89	7	88.5%	94.4%	6	MEC6名

※受講者数、出席率、単位修得率は、全欠席者を除いて算出。 ※2021年度以降の科目名「自立と体験3B」。

3-3. 授業改善状況

「自立と体験3」「自立と体験4」は、恒常的な改善組織を設置することが、答申の中で提言されており、明星教育センター内で、毎年授業改善の取り組みが行われてきた。具体的には、学生アンケートの実施、担当教員間の情報共有、シラバス・授業内容の見直し等である。改善提案は、キャリア形成科目等に関する検討委員会および学部長会において報告され、意見聴取を行ってきている。

当初は、キャリア教育専門コンサルティング業者から提供を受けた教材を中心に授業がスタートしたが、2年目から独自の教育内容を加え、明星大学オリジナルの授業内容を充実させてきた。明星教育センター紀要に掲載している各年度の報告書には、これらの授業改善の様子が記録されている。学生アンケートの結果は全体として好評であるが、自由科目ということもあり受講者数の確保は継続的な課題となっている。

3-4. 現在の授業内容

2020年度は、コロナ禍の中で「自立と体験3」「自立と体験4」共にオンラインでの授業実施となったが、当初予定していたシラバスは、表5のとおりであった。

表5 2020年度シラバス

	自立と体験3A(自立と体験3)	自立と体験3B(自立と体験4)
1	オリエンテーション(授業の概要・取組み方)	オリエンテーション(授業全体の概要)
2	社会への関心をもつ	現状の自分を知る
3	問題解決の方法1(問題解決とは)	自己の強みや能力について考える
4	問題解決の方法2(問題をみつける)	仕事の意義について考える
5	問題解決の方法3(課題を探る)	ジョブインタビュー1(目的と進め方)
6	問題解決の方法4(解決策を考える)	「働く」に関する情報収集1
7	問題解決演習1(社会の問題を見つける)	「働く」に関する情報収集2
8	問題解決演習2(社会の問題の課題を探る)	前半のまとめ
9	問題解決演習3(社会の問題の解決策を考える)	ジョブインタビュー2(プレゼンテーションの準備)
10	問題解決演習4(プレゼンテーションの実践と振り返り)	ジョブインタビュー3(プレゼンテーションの実施)
11	自分に向き合いキャリアを考える1(自分の問題をみつける)	ジョブインタビュー4(振り返り)
12	自分に向き合いキャリアを考える2(自分の問題の課題を探る)	自己と「働く場」の接点を考える
13	自分に向き合いキャリアを考える3 (自分の問題の解決策を考える)	自分を表現する
14	自分に向き合いキャリアを考える4 (プレゼンテーションの実践と振り返り)	今後の方向性を考える
15	まとめ(今後の行動を考える)	総まとめ

4. キャリアデザイン A (キャリアデザイン 1)・

キャリアデザイン B (キャリアデザイン 2)

4-1. 開講の経緯

社会的・職業的自立促進科目群検討委員会答申(学部長270312-2-2)に基づき、全学共通社会的・職業的自立促進科目群内の1つとして「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」の新設が大学評議会において承認された。本答申では、これらの授業を次のように位置付けている。

「キャリアデザイン1」は卒業後社会人として活躍していくために必要な意識の醸成を目的とするものであり、「キャリアデザイン2」は職業に就いて働いていくために必要な基礎的知識を習得することを目的とする。

「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」は、キャリアデザインに関する理論や考え方、職業・労働に関わる知識などの知的理解をもとに、演習なども含めながら幅広くキャリアについて考え、意識を醸成する科目であり、社会人基礎力(「自立と体験3」)や就職力(「自立と体験4」)を身に付けるという内容とは異なる内容を取り上げるものである。

本答申では、改めて「社会的・職業的自立促進科目群」の教育目標が設定された。

【教育目標】

- ①自己理解を深めることができる
- ②現代社会に生きる社会人として必要な「社会人基礎力」を備えている
- ③キャリアについて理解し、それに基づいて自らのキャリアについて考え、自立する市民への途を計画することができる
- ④職業人として必要な職業をめぐる状況について理解し、それに基づいて自らの職業人としての生き方を考えることができる
- ⑤社会人として生きていく為に必要な基礎的スキルを備えている

これを受けて、「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」の到達目標は次のように設定された。

<p>【「キャリアデザイン1」到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に社会人として活躍していくために必要な意識が醸成される ・キャリアに関する知識や理論を学び、自身のキャリアを考える方法が身に付く ・キャリアについての考え方を他者に説明できる <p>【「キャリアデザイン2」到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業に就いて働いていくために必要な職業労働に関する種々の基礎的知識が習得できる ・各テーマについて、チームで自律的に学習することにより、主体性、当事者意識、現実的能力が身に付く
--

4-2. 授業実施状況

平成27(2015)年～令和2(2020)年までの実施状況は、表6表7のとおりである。

表6 「キャリアデザイン1」実施状況

年度	受講者数	クラス数	出席率	単位修得率	担当教員数
2015	26	1	77.7%	84.6%	2(兼任)
2016	67		75.2%	77.6%	
2017	108		71.7%	75.9%	
2018	61		73.0%	75.4%	
2019	133		79.2%	80.7%	
2020	49		87.4%	91.5%	

※受講者数、出席率、単位修得率は、全欠席者を除いて算出。

※2019年度以降の科目名「キャリアデザインA」。

表7 「キャリアデザイン2」実施状況

年度	受講者数	クラス数	出席率	単位修得率	担当教員数
2016	14	1	70.0%	64.0%	2
2017	15	1	77.3%	73.9%	2
2018	14	1	79.0%	64.3%	1
2019	27	1	86.7%	96.3%	2
2020	76	3	86.6%	88.7%	3

※受講者数、出席率、単位修得率は、全欠席者を除いて算出。

※2020年度以降の科目名「キャリアデザインB」。

4-3. 授業改善状況

「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」共に、学生アンケート、担当教員間の情報共有、シラバス・授業内容の見直しにより、授業改善を続けてきた。授業実践を5~6年続ける中で、授業内容についてはより良い内容となり洗練されてきていると言えるだろう。一方自由科目であるため受講者数の変動が大きいことが、授業デザイン上の課題となっている。そのような中、それぞれの授業について工夫を凝らしてきた。「キャリアデザイン1」については、受講者数の多寡にかかわらず、1クラスで実施し、多様なメンバーとのグループワークの機会を担保している。「キャリアデザイン2」は、少人数クラスに分けることにより、担当教員が丁寧に関わり「手塩に掛ける教育」を実践することができている。

4-4. 現在の授業内容

2020年度は、コロナ禍の中で「キャリアデザインA」「キャリアデザインB」共にオンラインでの授業実施となったが、当初予定していたシラバスは、表8のとおりであった。

表8 2020年度シラバス

	キャリアデザイン A(キャリアデザイン1)	キャリアデザイン B(キャリアデザイン2)
1	オリエンテーション	オリエンテーション(授業全体の概要・取り組み方)
2	様々な働き方	豊かな人生について考える
3	ライフステージとキャリア	働くことの意義について考える
4	人の障害に関わる発達	法律と労働に関わることについて調査し、理解を深める
5	パーソナリティ	専門家から学ぶ(テーマ:自分を守る法律の重要性)
6	コンピテンシー	法律と労働に関わることについて調査し、理解を深める
7	意思決定	法律と労働に関わることについてまとめ、調査する
8	モチベーション	プレゼンテーション(専門家より論評)
9	働く上でのストレス	働き方やお金に関わることについて事前調査する
10	アサーション	専門家から学ぶ(テーマ:多様な働き方や人生に関わるお金)
11	ナラティブ・アプローチで考える	働き方やお金に関わることについて調査し、理解を深める
12	働く若者を取り巻く社会環境	働き方やお金に関わることについて調査し、理解を深める
13	自分のはたらき方を考える	プレゼンテーション(専門家より論評)
14	ダイバーシティ	自分のキャリアデザインを考える
15	今後の計画を立てる	総まとめ

5. 自立と体験2

5-1. 開講の経緯

2016年6月、学長の諮問により「『自立と体験2』の全学共通科目への移行を検討する諮問委員会(以下「諮問委員会」という)が設置された。学科科目として運営されている「自立と体験2」を、全学共通科目として全学的なキャリア教育プログラムを提供できる科目として見直し、一層充実した体系的なキャリア教育の実現を目指したものである。従来学科科目として運営されていた「自立と体験2」は、特色ある学科のキャリア科目として名称を改めて運営することを期待された。

諮問委員会は12月に最終答申を学長へ提出し、2017年2月の大学評議会において全学共通科目への移行が承認された。これにより2019年度より「自立と体験2」は全学共通科目として開講されることとなった。諮問委員会の最終答申において教育目標、授業計画・概要が示され、具体的な授業内容の検討は、明星教育センターにて進められた。

本答申で設定された教育目標、到達目標は、次のとおりである。

【教育目標】

社会の課題と自らを関連づけ、総合大学としての明星大学が要する学部学科の多様な視点を活かしつつ、大学における学びの基礎となり、日常生活や社会でも求められる汎用的技能としての「論理的な思考力と論理的な表現力」を培うこと。

【到達目標】

- ①根拠をもって考え、様々な問いを発見することができる
- ②専門性を意識して調べることができる
- ③根拠に基づく説得力ある表現ができる(書く・話す)
- ④社会の課題と自らを関連付けて説明できる

準備期間を経て、2019年4月より、全学共通科目1年次開講科目の選択科目として2019年度生の履修登録が開始された。なお、2020年度以降は、1年次開講科目であるため、2年生(2019年度生)も履修可能となる。

5-2. 授業実施状況

令和1(2019)年～令和2(2020)年の実施状況は、表9のとおりである。

表9「自立と体験2」実施状況

年度	受講者数	クラス数	出席率	単位修得率	担当教員数
2019	284	10	82.5%	90.8%	8
2020	212	8	85.3%	90.6%	4

※受講者数、出席率、単位修得率は、全欠席者を除いて算出。

5-3. 授業改善状況

初年度の実施を終えて、2年目に向けて改訂が行われた。また2020年度は、コロナ禍によりオンライン授業となったために、更なる改善を実施した。

初年度は各クラスにSAを配置したが、2020年度はオンライン授業のため、SAの配置は行わなかった。

5-4. 現在の授業内容

2020年度は、コロナ禍の中で「自立と体験2」はオンラインでの授業実施となったが、当初予定していたシラバスは、表10のとおりであった。

表10 2020年度シラバス

自立と体験2	
1	オリエンテーション
2	ロジカルシンキング
3	プレゼンテーションの基本
4	問いの立て方
5	多様な視点を知る(ゲストスピーカー)
6	問いを集める
7	専門の視点で情報を集める
8	情報を基に未来像を描く
9	未来像の根拠を集める
10	考えを論理的に構成する
11	プレゼンテーションの準備
12	プレゼンテーションのリハーサル
13	プレゼンテーション大会
14	プレゼンテーション大会の振り返り
15	これからのプランニング

6. 明星教育センターのキャリア教育の成果と今後の展望

6-1. 明星教育センターのキャリア教育の成果

(1) 明星大学独自の体系的キャリア教育の一つのモデルを実現

明星教育センターでは、「多様性からの学び」「体験学習による学び」を特色として掲げ、これまでも明星大学オリジナルの授業を充実させてきた。中でも明星大学独自のキャリア教育プログラムとして設計上の主軸に据えたのが体験学習のプロセスによる社会人基礎力(明星大学バージョン：以下明星版)の育成である。経済産業省が掲げる「社会人基礎力」と対応させたもので、新たに明星大学用アレンジし、キャリア教育

専門コンサルティング業者と共同で作成したものである(表11)。

表11 社会人基礎力(明星大学バージョン)

自らを成長させる力	実行力	自らのものごとにとりかかり、実行に移す力
	責任感	任されたことを途中で投げ出さず、最後までやり遂げる力
	貢献意識	社会や組織に貢献したり、他の人が望むことに応えたりする力
	振り返る力	体験を振り返ることによって、学びを深める力
チームで働く力	発信力	自らの考えを述べ、相手に伝える力
	傾聴力	相手の考えや意見を聴き、理解する力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	規範性	自ら考えて、社会や組織のルールやマナーを守る力
考え行動する力	問題発見力	さまざまな見方や広い視野で、ものごとをとらえる力
	計画力	計画性を持って取り組む力
	状況対応力	状況を理解し、臨機応変に対応する力
	意思決定力	自分で考え、判断し、決定する力

この社会人基礎力(明星版)は、大学の授業だけでなく学内活動や学外活動など大学生活の様々な場面で学びの場と捉え、体験・意識して行動し、振り返ることで身につく力として、1年次の初年次教育「自立と体験1」の授業で、体験学習のプロセスと社会人基礎力(明星版)を紹介し取り上げている。前述の通り当初は「自立と体験3」「自立と体験4」は、「自立と体験1」の学びを継続し発展させていく科目として開講され、それぞれの科目において社会人基礎力(明星版)の育成を目指してきた。2015年以降はこれらの科目に加え新たなキャリア教育科目が開講し、現在は4年間の中で社会人基礎力(明星版)も含め、卒業後の人生や就職活動に向けて個々に身につけたい意識やスキルが学べるようになってきている。以上のような変遷をたどり、今日の明星大学独自の体系的キャリア教育プログラムの実現に至っている。

(2) 明星教育センターのキャリア教育科目に対する学生の評価

明星教育センターのキャリア教育科目を履修した学生はどのような評価をしているのか、過去の各授業実施報告書をもとに考察する。

①学生の授業満足度の高さ

明星教育センターでは全てのキャリア教育科目において、受講後に最終回に参加した学生に終了時アンケートを実施している。過去の報告書に記載されたアンケートを集計した結果、「授業に参加して良かった」「割と良かった」と肯定的に回答している学生は、平均すると97.1%であった。また「この授業を後輩にも推薦しますか」に対する「多めに勧めたい」「勧めたい」の合計の平均は95.0%といずれも学生の受講後の評価は高いものとなった。これらの理由について自由記述欄からは、授業の内容に関する評価と授業形態に関する評価に二分されていた。授業内容についてはそれぞれ教育目標が異なるため、ここでは授業形態について見ていく。

②学生のキャリア教育科目の特色に対する評価

自由記述欄の中で、最も多くみられたのが、「多様性からの学び」に関する記述である。具体的には、「いつもひとつの方向に偏って勉強していたので様々な視点や考え方が得られて良かった」(2014自立と体験3B)「違う学部の人と関わりを持つことができた」(2016自立と体験3A)「普段だったら自分が絡む機会のない人とも話し合うことができたのでよかった」(2018キャリアデザインA)「色々なテーマから学部と関連した学びもできるし、他学部との交流をして色々な視点から学ぶことができる」(2019自立と体験2)等の記述が見られた。

次に多かったのが「体験学習や協同学習による学び」に関する記述である。「グループワークが多く身に付けるスキルが沢山あった」(2016自立と体験3A)「この授業では、グループワークを通じて人とのコ

コミュニケーション力を学ぶことができた。ほかの授業にはこういった学習ができないのでやりがいを感じた」(2017自立と体験3B)「グループワークの場数と、将来のための知識が同時に得られる授業」(2018キャリアデザインB)「グループワークを通して、積極的に参加することの意義を学べた」(2019自立と体験2)等の記述である。

以上のことから明星教育センターのキャリア教育科目の特色でもある「学部学科を超えた多様な他者との学び」や「体験学習や協同学習を通じた学び」について、学生から一定の評価を受けていたことが読み取れる。

③今後の改善点や要望

一部のキャリア教育科目ではアンケートの最後に授業の改善点や要望について尋ねた自由記述欄を設けている。それらを見ていくと、難易度別のクラス運営を望むものやグループワークの実施方法のさらなる充実、そして他クラスや外部との交流を求める声などがあつた。学生から見た改善点も視野に入れながら今後に向けてより良い授業プログラムと授業運営を図っていきたい。

6-2. 明星教育センターのキャリア教育科目の今後の展望

(1) 体験学習や協同学習の新たなスタイルを模索

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から明星教育センターの授業は全て非対面のオンラインで実施した。学生のネット環境等も整わない中で、協同学習や体験学習を進める難しさがあつた半面、事前学習が上手く機能するなどオンライン授業だからこそ充実できた側面も見られた。今後これらを検証し、得られた有効な手立てを次年度以降に向けて活かしていきたい。

(2) 明星教育センターのキャリア教育科目の再構築

2010年より初年次教育がスタートし、2012年から実施してきた明星教育センターのキャリア教育科目は、センターの教員がチームで協働し、改善を続けながら今日の明星大学の体系的キャリア教育を実現してきた。現在、節目となる10年目で一度立ち止まり2022年度以降に向けて授業運営(共通教案での実施等)の見直しや新たな明星教育センターのキャリア教育科目の在り方について検討を始めている。今まで得られた知見を活かしつつ、新たな明星大学オリジナルのキャリア教育が実践できるよう、より一層の充実を図っていききたい。